

平成21年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ トチクボ ユウジ
氏名 柄窪 優二

研究期間 平成21年度

研究課題名 ハイビジョン映像によるドキュメンタリー番組制作指導についての研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	柄窪 優二	文化情報学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究は大学におけるドキュメンタリー番組や広報ビデオなど映像コンテンツ制作指導の役割や課題を、地域の企業や団体と連携する形で作品を企画・制作して Web による地域情報発信や社会貢献を視野に入れて、学生の教育指導を実践することで探ろうというものである。

2. 研究方法等 (300字以内で記述)

研究者が担当する09年度開講の「卒業研究」(4年生)において下記のドキュメンタリー作品①②③の制作指導を実践した。また「マルチメディア演習」(3年生・テレビ制作演習)において下記④広報ビデオの制作指導を実践した。

①ドキュメンタリー「市民が手作りで平和発信」20分

(連携先：戦争と平和の資料館ピースあいち)

②ドキュメンタリー「東山動物園物語～動物と人の鼓動」19分

(連携先：名古屋市東山動物園)

③ドキュメンタリー「輝く！オシャレな街・星が丘イルミネーション」10分

(連携先：星が丘テラス)

④広報ビデオ 「デザインの間の魅力」 2分×5本 (連携先：中部電力・デザインの間)

本研究では、こうした取組みを通して、映像制作指導の問題点や映像作品の活用と社会貢献の意義、今後の課題などについて分析・評価を試みた。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

完成した作品を分析・評価したところ、①～④の全てが当初の狙い通りの一定のクオリティを保った作品として制作できた。企画意図や構成も優れた作品で、撮影映像、音声処理、字幕処理もテレビ番組と同等レベルの仕上げとなった。そこで①ドキュメンタリー「市民が手作りで平和発信」は地方の時代映像祭に参加した。また①②③とも作品の完成度が高かったことなどから名古屋のCATVスターキャットで放送された。

映像制作指導の問題点としては、①②③は実際のテレビで放送している番組と同じような作品なので、経験が少ない学生にとっては、レベルが高い、難しすぎる作品だったと考えられる。すべての制作過程において教員の適切な指導がなければ作品は完成できなかったと分析できる。今後の検討が必要な点は下記の通りである。

- ・作品の企画や構成は極めて重要で、学生にはそうした部分の指導が足りなかった。
- ・カメラ撮影は専門に教育を受けていないので教員のフォローが必要不可欠であった。
- ・ノンリニア編集は対応できていたが、映像編集の構成が未熟で複雑な編集は対応できなかった。

ただしレベルの高い映像作品を制作することに対して学生の意欲や取組みは十分であった。学生は作品の取材・編集を通して、映像メディアやコンテンツ制作の魅力を実感して、大学での学びの集大成となる卒業研究に積極的に取り組んでいた。教員の視点でも、テレビ局と同じような番組を大学で実際に制作指導できたということで、教育効果も大きかったと考えられる。

今回制作した映像作品は、Web等で積極的に情報発信して、大学として地域の活性化等に貢献することも視野に入れて取り組んだ。完成した作品を下記の形で活用した。

- ・①②③のドキュメンタリー3本については、大学の文化情報学部ウェブサイトで映像公開した。
- ・①は地方の時代映像祭に参加、①②③は名古屋の市民映像祭に参加して、作品を公開した。
- ・①②③は名古屋のCATV「スターキャット」で放送して頂いた。
- ・④は中部電力「デザインの間」ウェブサイトで映像公開して頂いた。
- ・④は映像制作の裏側を紹介するメイキング映像作品を制作して学部サイトで公開した。

連携先の企業や団体側からは、完成作品の内容について概ね高い評価を頂いた。可能ならば連携先のウェブサイトでも作品を公開するなど積極的に利用してもらいたいという希望を持っていたが、現時点では中部電力以外では連携先のWebサイトで作品公開例はない。この点については、作品の企画段階で連携先と活用法を具体的に相談する部分が甘かったと考えている。しかしながら、連携先では関係者や見学者等に完成作品を見せて、一定の活用は行われている。今後も大学と一緒に映像制作でコラボレーションを継続する信頼関係は築けたと評価できる。

今回の取組みを教育推進プログラムとして捉えた場合、具体的な目標は下記の通りである。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ①教育方法の工夫改善、独自教材の開発 | ②情報通信技術を活用、Web情報発信 |
| ③地域と連携した幅広い学び | ④地域と連携した課題探求能力の育成 |
| ⑤質の高いハイビジョン映像制作 | ⑥国際化・情報化時代の人間教育 |

映像制作が軸になる取り組みであるが、プロジェクトが扱う専門分野は広範囲にわたる。①では「教育工学」、②では「情報教育」、③④では「社会科学全般」、⑥では「語学教育」の専門性が求められる。今後、このプロジェクトをさらに推進するには、大学内で研究室間の連携がこれまで以上に必要になると考えられる。ドキュメンタリー「市民が手作りで平和発信」は英語教育の研究室と連携して平成22年度に英語版を制作することになった。これは研究室間の今後の連携モデルになる。映像制作指導の最大の課題は、作品で何を伝えるのか? という番組制作の本質にある。つまりノンリニア編集が自由に使えても、カメラ撮影が出来ても、リポートやナレーションが上手く出来ても、番組で何をどのように伝えるのか? という視点を明確に捉えて判断できなければ映像制作者とは言えない。こうした映像制作の本質的な指導は、これからの大きな課題となる。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①メディア教育	②映像制作	③ドキュメンタリー	④地域連携
⑤ハイビジョン	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

研究成果の一部は下記論文で報告

- 1) 柄窪優二、亀井美穂子「デジタル放送時代のメディア教育を探るー映像制作指導の現状と課題ー」、椙山女学園大学文化情報学部紀要 第9巻 第1号 2009、p39-47、2010年1月
- 2) 柄窪優二、亀井美穂子、「地域連携型メディア教育実践の試みーハイビジョン映像で情報発信ー」椙山女学園大学文化情報学部紀要 第9巻 第2号 2009、2010年3月発行予定